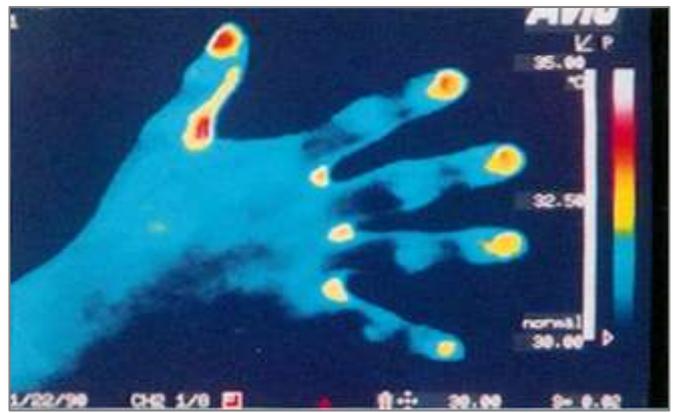


週刊 タバコの正体

タバコを吸っても、外見上まったく健康に悪影響があるとは思えません。それどころか、喫煙者の多くはリラックスした表情を浮かべるほどです。しかし煙を吸い込んでしばらくすると、タバコに含まれるニコチンのせいで体内の血管が収縮するので、末端にある毛細血管の血流が少なくなります。すると下図のように手の温度が下がります。画像では分かりにくいのですが喫煙すると2℃も下がります。

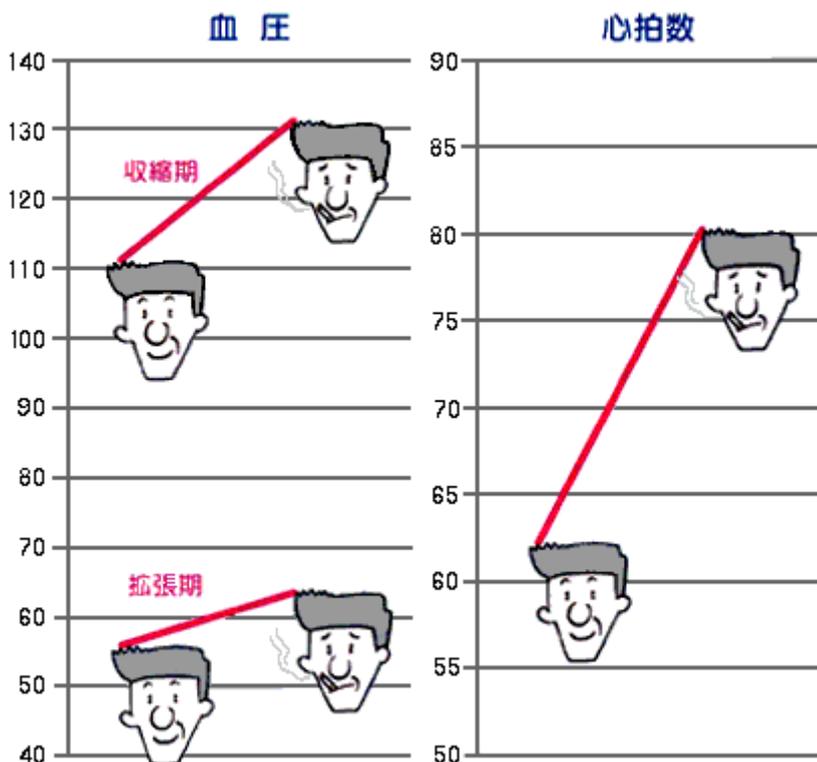
血液の流れが少なくなると、温度が低くなるだけではありません。画像のような状態が長く続くと血液が行き渡らなくなった細胞は壊れていき、「バージャー病」という手足が腐る病気の原因になります。この病気は厚生労働省の難病に指定されていて、約1万人の患者がいるそうです。



▲喫煙前

ファルマシア発行 写真で見る喫煙関連疾患 より

▲30秒後



そして、左のグラフを見て下さい。血管が縮むと身体全体の血圧も上昇し、運動をしていなくても心拍が上がります。タバコを吸うとそれだけで、心臓がバクバクするのです。

タバコを吸うと、身体のなかの臓器がシンドイ思いをしているのに、なぜか気分だけリラックスしてしまうなんて不思議ですよ。

表面上ではわからないこんな事情もちゃんと知っておいて下さい。

産業デザイン科 奥田 恭久

「Groppelli A, Omboni S, et al: J Hypertens 1990;8(Suppl 5):S35.」

循環器病情報サービスHP より